

平成30年度

板野南小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①読む・聞く・書く・話す力を高める。(目的意識を持ち、主体的に自分の考えを伝える)
- ②主体的に学習に取り組むことができる児童の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
小出里香	・教頭 吉野育也 ・教務主任 白岩佐恵子 ・研修主任・特別支援教育コーディネーター 上田誉子 ・人権教育主事 山本啓介

校長

高田 優 印

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 学カアップタイムや家庭学習で計算や漢字などを繰り返し練習することで、定着しつつある。	①丁寧に視写することができる。 ②声に出してすらすら音読ができる。	全国調査・ステップアップテストの「言語事項」「数と計算」に関する事項について、平均正答率が70%を上回るようにする。	引き続き、漢字や計算のドリル学習を継続するとともに、算数の授業の始めに読み上げ計算を行い、基礎・基本の定着を図る。	学カアップタイムでは、読み上げ計算プリントを用いて1分間の計算練習をペア学習で行った。漢字ミニテストを定期的実施し、習得できていない漢字についてはドリル学習を行い定着を図った。数と計算、図形領域において、具体物を操作したり具体的な体験を伴う学習を行った。	全国調査・ステップアップテストについては、4年生「数と計算」6年生「言語事項」については、平均正答率が70%を上回った。
課 題 文章を書く力が弱い。	①学カアップタイムでは、課題に集中して取り組ませる。 ②宿題での反復練習、音読カードやミニテストでの確認を継続的に行う。	①隔週で漢字と計算練習を10分間行う。月曜日は視写をする。 ②学習の進度に合わせて、その都度実施する。		評価	次年度における改善事項
					・TT指導、少人数指導、個別指導等、児童の学習状況や単元に応じて学習形態を工夫し、個々に応じた学習を進める。 ・数量や図形について実感を持った理解ができるよう、具体物の操作や、具体的な体験を伴った活動を積極的に取り入れる。 ・語句の量を増やし、話や文章の中で使えるようにするとともに、語句のまとまりや関係を理解するために、書く活動を積極的に取り入れ語彙を豊かにする。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ ハンドサインを活用して発表することができる。学習の内容がわかると頑張ることができる。「自分の考えや意見を伝える力がついている」と答える児童が増えてきた。	①人の話を考えながら、最後まで聴くことができる。 ②自分の考えをもち、筋道を立てて書いたり話したりすることができる。	「自分の考えや意見を伝える力がついている」と答える児童の割合を80%以上にする。	相手を意識して考えを伝えることに重点を置きながら、現在の取り組みを継続していく。	ハンドサインを用いて、自分の考えをしっかりともちながら伝えることができるようにした。個人の考えや集団の考えを広げたり深めたりできるように、小グループや全体での意見の交流や議論の場にホワイトボードを取り入れた。	「自分の考えや意見を伝える力が身につけている」と答えた児童は、78%であった。
課 題 自分の考えを筋道を立てて的確に表現する力が不足している。	①異学年や保護者に向けて発信する活動を取り入れ、相手を意識して自分の考えを伝える活動を行う。 ②授業の導入後、課題を自力解決していくための見通しを立てる時間をとる。	①異学年に向けて発信する機会を1年に1～2回持つ。 ②研究授業を一人1回行う。		評価	次年度における改善事項
					・言葉による表現とともに、具体物、図、式、表、グラフを用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動を積極的に取り入れる。 ・学習したことを繰り返し用いたり、生活場面において使いこなす機会をもてるよう、相手に向けて発表する機会を設ける。 ・自分の考えを伝えるために、言葉の使い方や文や段落のつながりに注意して、作文を書く機会を設ける。 ・各教科で、プログラミングを体験しながら、論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 運動や体験活動など興味関心をもった活動に進んで参加し、努力を惜まず取り組むことができる。読書習慣が定着しつつある。	①自ら調べ解決する学習過程を身につけ丁寧に、粘り強く課題に取り組むことができる。 ②望ましい生活習慣を身につけ気持ちよく学習に臨むことができる。	課題を意識して学習に取り組んでいると答える児童の割合を80%以上にする。	引き続き、児童が主体的に問題解決していくために、見通しを立てることができるように授業改善に取り組んでいく。	毎時間、課題を明確にし黒板、児童ノートに記入し確認させるようにした。振り返りについては、単元等のまとまりごとに「何が分かったか」「何ができるようになったか」ノート等にまとめ、確かめるようにした。	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」と答えた児童は、78%であった。
課 題 自分から課題や問題点を見つけたら、考えたりする意識が少なく、指示待ちになることが多い。健康的な生活習慣づくりが必要である。(早寝・早起き・朝ごはん・歩育)	①授業でめあてを提示し、課題を意識させるようにする。 ②保護者と連携しながら生活や学習習慣づくりを行う。	①毎回、ノートにめあてを書かせる。授業の振り返りを行わせる。		評価	次年度における改善事項
					・子どもたちが主体的に学んでいくことができるよう、授業の中での学習サイクルを定着させる。 ・課題に対して、操作したり、観察したり、データを整理するなどの結果を導くための見通しをもたせ、自力解決できる時間を確保するように授業改善を進める。 ・単元やまとまりごとに学習の過程や成果を振り返る時間を設け、よりよく問題解決ができたことを実感できるようにする。

平成30年度 学力向上ロードマップ

